

田園調布せせらぎ公園 公園計画ワークショップ

ワークショップ報告書

令和3年3月

大田区

目次

1. 今回のワークショップについて	01
2. 第1回ワークショップの概要	02
3. 第2回ワークショップの概要	03
4. 第3回ワークショップの概要	04
5. 第4回ワークショップの概要	05
6. 公園の航空写真	07
7. 課題整理表	08
8. 課題整理図	15



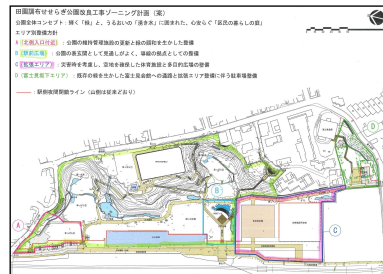
1. ワークショップの基本事項

(1) ワークショップ実施に至る背景

用地取得に伴う公園の区域拡張や、関連する計画を考慮して、公園全体の再整備に向けた検討が必要となった。公園の更なる魅力アップを図り、公園の将来像を住民と共有するためには、区民の意見を今後の改修整備に反映させる必要性が高く、ワークショップ実施に至った。

【大田区の主な整備計画】※主におおた重点プログラム(H29)による

- ①公園の拡張→体育館や多目的広場等の整備
- ②富士見坂下エリアの改修
- ③文化施設の新設→田園調布せせらぎ館（建設中）及び外構部分の整備
- ④駅前入口広場の改修→既設休憩所（旧クラブハウス）の解体及び園路広場の整備
- ⑤北側入口の改修→公園の管理施設の更新整備



2) ワークショップの目的

田園調布せせらぎ公園で計画されている施設を含めて、公園のあるべき姿や望ましい将来像などについて、広く区民の意見を聞き、今後の改修計画に活かすことを目的とする。

(3) ワークショップの検討テーマ

- ①公園の整備のあり方について → 既定の施設整備計画をふまえて公園改修の方向性を共有する
- ③公園の利用のあり方について → 文化施設（建設中）を含めた公園利用の方向性を共有する
- ③公園の施設配置のあり方について → 体育施設（計画）を含めたゾーニングの方向性を共有する

(4) ワークショップの構成メンバー（定員 50名）

- ①推薦による参加者=25名
 - ・自治会、町会、地区PTA、地区青少年対策委員会、消防団、田園調布せせらぎ公園自主活動団体など
- ②一般公募による参加者=25名
 - ・募集方法：区報、区ホームページ、区設掲示板、町会回覧板など

(5) ワークショップ開催（新型コロナウイルスの影響により日程変更となる）

- ①開催日時及び参加人数

・第1回：9月5日（土）9時30分～12時30分	→約3ヶ月延期	参加者44名
・第2回：10月31日（土）9時30分～12時30分	→約2ヶ月半延期	参加者39名
・第3回：11月28日（土）9時30分～12時30分	→約1ヶ月延期	参加者35名
・第4回：12月19日（土）9時30分～12時30分	→当初予定通り	参加者39名
- ②開催予定場所

・田園調布せせらぎ公園休憩所	及び	田園調布富士見会館
延べ参加者157名		

【注意点】

- 新型コロナウイルスの感染拡大防止のための適切な予防対策を実施した
 - ・参加者に協力をお願いすること：検温、マスク着用、消毒など
 - ・3密にならないためにすること：席の間隔を空ける、大声を出さないようにする、部屋の換気を良くするなど

(6) ワークショップ等の情報発信

- ①各回開催後の結果報告
 - ・ニュースレター制作（4回）：第1回～第4回ワークショップ開催後に発行
- ③情報発信方法
 - ・ニュースレターを区ホームページにアップ、区設掲示板や回覧板、公園休憩所等への掲示など

2. ワークショップの実施概要

(1) 参加者のグループ分け

- 50名の参加者（推薦25名＋一般公募25名）を次のように5つのグループに分ける。
 - ・赤色グループ10名（推薦5名＋一般公募5名）
 - ・青色グループ10名（推薦5名＋一般公募5名）
 - ・黄色グループ10名（推薦5名＋一般公募5名）
 - ・緑色グループ10名（推薦5名＋一般公募5名）
 - ・紫色グループ10名（推薦5名＋一般公募5名）

- 第1回WSでは
→氏名順（50音順）に振り分け
- 第2回以降のWSでは
→前回と重ならないように振り分け

(2) 運営スタッフ構成と主な役割

- ・ファシリテーター1：小 東（総括：司会、進行、説明、取りまとめ）
- ・ファシリテーター2：篠 沢（総括補助：グループワーク進行）
- ・ファシリテーター3：石 川（グループワーク進行）
- ・ファシリテーター4：西 村（グループワーク進行）
- ・ファシリテーター5：高 井（グループワーク進行）
- ・ファシリテーター6：秋田谷（グループワーク進行）
- ・サポート1：林（ワーク全般の記録及び機材操作、受付など）
- ・サポート2：長谷川（ワーク全般の写真撮影及び記録補佐、受付など）

(3) ワークショップの検討テーマと目標

①第1回ワークショップ（9月5日開催）→場所：田園調布せせらぎ公園休憩所

【テーマ】公園のことを良く知ろう！（良い所、悪い所、大切にしたい事）

- 【目標】公園の既整備計画を説明して、基礎的な情報を共有する。
事前に調べた公園のことについて説明して、参加者からも情報を得る。
公園の良い所、良くない所、大切な事について話し合い、意見を整理する。

②第2回ワークショップ（10月31日開催）→場所：田園調布せせらぎ公園休憩所

【テーマ】公園で残すべき所と変えても良い所について考えよう！

- 【目標】公園のことに関する情報を共有して、公園として大切にしたい事を整理する。
何が残すべきなのか、どのように残すべきか、について考える。
何故変えても良いのか、どのように変えるべきか、について考える。

③第3回ワークショップ（11月28日開催）→場所：田園調布富士見会館

【テーマ】公園のあるべき姿について考えよう！

- 【目標】みんなで考えた公園の残す所と変える所に関する情報！共有する。
公園をどのように利用するのが良いかについて考える。
新たに整備される施設とどのように連携すべきかについて考える。

④第4回ワークショップ（12月19日開催）→場所：田園調布富士見会館

【テーマ】公園の場所ごとに改修の方向性を考えよう！

- 【目標】みんなで考えた公園のあるべき姿に関する情報を共有する。
場所ごとに望ましい公園利用のイメージについて考える。
場所ごとに望ましい公園改修のルールについて考える。

■開催概要

○日 時：令和2年9月5日（土）9：30～12：30

○場 所：田園調布せせらぎ公園休憩所

○参加者：44名

■プログラム

○テーマ：公園のことを良く知ろう！

○目 標：公園の良いところ、良くないところ、大切にしたいことを皆で考えよう。

【タイムスケジュール】

- 9：30～ 全体会（多目的室にて）
- 10：20～ 現地見学（公園内）
- 11：00～ グループワーク（多目的室及び周回室にて）
- 12：00～ 全体会（多目的室にて）

■当日の様子



赤色グループ



青色グループ



黄色グループ



緑色グループ



紫色グループ



ワークシート



体育施設等整備予定エリア



富士見坂下園地予定エリア

【ワークショップでの主な意見】

1. 公園の自然に関する意見

■自然と緑について

- 緑と水、生き物、自然が豊か
- 木陰の涼しさが貴重
- 自然の豊かさを大切にしたい
- 自然とのふれあい、環境教育の充実を
- 自然環境の保全管理が必要
- 生き物の生息環境の保全管理が必要
- 樹林は適度な手入れが必要
- 持続可能な開発目標（SDGS）の設定が必要

■湧水について

- 湧水を大切に
- 湧水の活用・改良の検討が必要
- 湧水に支えられた生態系の保全が必要
- 湧水を活用した子どもの遊びを考えたい

■崖線の斜面緑地について

- 崖線の緑の保存が必要
- 崖崩れが懸念される

2. 公園の利用に関する意見

- くつろぐ、散歩等の利用が良い
- ドッグランが必要ではないか
- 夜間も使えるよう開園時間を見直したい
- 世代を超えて多くの利用が行なわれている
- 防犯と安心安全について検討が必要
- 地域の活動に利用できるようにしたい

3. 公園の施設に関する意見

■公園内の施設について

- 自然を残しながら必要な施設改修を行ってほしい
- 休養施設を充実してほしい（ベンチや休憩所）
- 遊戯施設はあまり入れないでほしい

■公園へのアクセスについて

- 駅近の立地条件を活かした整備を
- 西側のアクセスが弱く自動車の利用が不便

■園路・階段とバリアフリー

- 高低差による上下のエリアが分断されている
- 階段等の段差があふない
- バリアフリー対応は行なってほしい
- 自然と調和した園路整備を

4. エリア・場所ごとの意見

■富士見坂園地エリアと富士見会館について

- 今ある自然を大切に
- 自然観察・環境教育の場として活用したい

- 自然観察路をつくる
- ある程度の整備は必要
- 駐車場の必要性は少ない
- 富士見会館へのアクセスを考えたい

■体育施設とその周辺エリアについて

- 球技や多様なスポーツの練習の場としたい
- 防災面にも配慮したものとしてほしい
- 多目的広場と幼児が遊べる場を作ってほしい
- これまでに無かった調布地区の拠点施設として有効

『計画への懸念』

- 計画の進め方が不透明では？（住民への説明が不十分）
- 本当に適地なの？（浸水や崖崩れの恐れあり）
- 施設過多では？（公園の自然が損なわれる恐れあり）
- 広場として活用しては？（体育館は不要である）

■文化施設とその周辺エリアについて

- 施設には期待している（おおいに活用したい）
- 施設への懸念がある（地域で利用しやすいものになるのか）
- 地元に必要な説明をした上で整備してほしい

■管理ヤードとその周辺エリアについて

- 花見に適した桜があるか近寄れない
- この付近は浸水した事がある場所
- 駐車場は不要・駐輪場は必要

■公園内のオープンスペースについて

- 広々とした場所がある良い公園
- 子ども達ののびのび遊ぶ広場があるのが良い
- スポーツのための広場があるのが良い
- 文化施設の整備により広場が減少したので対応してほしい

5. 検討方法その他に関する意見

■検討プロセスについて

『住民参加・ワークショップ』

- 住民の意見を聞いてくれるワークショップとして期待している。
- 整備費用に関する情報が無いので、検討することは難しい。
- 建設的な意見の交換の場として、目的とゴールをより共有したい。
- 大人だけでなく、子ども達の意見も聞いて決めるべき。
- 建物を作るか否か、緑をどのように残すか、先の事を考えて決めるべき。
- 公園で活動する市民団体やボランティアの数が少ないように感じる。

『調布地域のまちづくりについて』

- 調布地域は、元々区の施設が少なかった。
- 調布地域の環境の良さを内外に発信する拠点となってほしい。
- 公園を中心とする新しいまちづくりの拠点として期待。

■周辺環境との連携について

- 多摩川台公園には、桜、アジサイ等の見どころがあるので、この公園には違うものがあるとよい。多摩川台公園との相互補完、役割分担が大切。
- グリーンフェスタに使える広場があると良い。
- 湧水、特に第3湧水は六郷用水につながっている。沼部方面の散歩道へどんどん水が出てほしい。

■費用対効果について

- 費用対効果、環境や予算、税金の負担などを考えて決めるべき。

■開催概要

○日 時：令和2年10月31日（土）9：30～12：30
 ○場 所：田園調布せせらぎ公園休憩所
 ○参加者：39名

■プログラム

○テーマ：公園の残すところ、変えるところについて考えよう！
 ○目 標：前回出された意見や検討に必要な情報を皆で共有して、4つのエリアそれぞれの方向性を考える。

【タイムスケジュール】

9：30～ 全体会（多目的室にて）
 10：25～ グループワーク①（現地見学）
 11：30～ グループワーク②（多目的室及び周回室にて）
 12：15～ 全体会（多目的室にて）

■当日の様子



体育施設周辺エリア



富士見坂園地エリア



第2水源周辺エリア



文化施設周辺エリア



赤色グループ



青色グループ



黄色グループ



緑色グループ



紫色グループ



航空写真を使って検討

【ワークショップでの主な意見（場所ごとの課題の整理）】

1. 公園全体に関わる話題

- これまでの計画の継承が大切（特に平成16年の基本方針）
- 市民参加の促進（ボランティア）
- 夜間閉園の継続
- 公園利用のルールづくり（譲り合い）
- 周辺施設とのすみ分け（特に多摩川台公園）
- まちづくりへの配慮（特に駐輪場の配置）

2. 体育施設周辺エリアに関する話題

■内容・規模・配置と利用想定

＜規模＞

- 2000㎡以上、高校の体育館の広さ、バレーボールコートが2面取れる広さ。
- 大会を開きたいし、避難所としてもできる限り大きく広いものが必要。
- 規模感として提示された面積は過大。観客席は不要。

＜内容＞

- 防災面を含め、住民のスポーツ利用に応じて施設の内容を充実した検討を願う。

＜配置＞

- 建設場所によって条件が異なるので、もう少し判断材料が無いと判断できない。
- 上段のグラウンドに体育館はつけれないか？

■防災機能の充実

- 地域防災計画上の位置づけを明確にしてほしい
- 小中学校の避難所機能を補完してほしい（現状で足りていない）
- 想定以上の災害への対応が必要（浸水対策）
- 地域に残された唯一の避難所用地なので整備を望む
- 避難時の快適性に配慮してほしい
- 既存施設（文化施設と富士見会館）の防災機能で十分では？

■体育施設の需要を明らかにすべき

- 調布地区としては体育館の要望がある。
- 体育館の必要性をあらかじめしてほしい。

■自然への配慮、樹木の保全・復元

- 失われた樹木の復元は必ず実施してほしい
- 既存樹木の保全（これ以上木は切らないでほしい）
- 自然に配慮した体育施設にしてほしい（公園の緑を活かす）

■多目的広場（無くなったもの）の復元してほしい

- 無くなった広場は子供たちが遊ぶ貴重な場所だった。
- 暫定広場はそのまま残し、いつでも自由に遊べるようにしてほしい。
- 多目的広場の1つには、3オン3のバスケやフットサルがプレイ出来る様にしてほしい。
- 子ども～シニアがスポーツで健康になれる様に。

■車両動線、駐車スペース

- 体育施設への車両動線と駐車スペースは十分な検討が必要
- 駐車場を作る場合は最小限にしてほしい
- 緊急車両の出入りは防災上でも重要（誠政公協から）

■近隣への配慮が必要

- 子どもたちの声が響く。近隣にとって騒音は好ましくない

- 夜間まで不定期多数の人に入出入りされる体育館は不要。夜は静かにしてほしい。
- 公園はあくまでも憩いの場としてほしい。静かな環境を守ってほしい。
- コンサート、プロスポーツなどのイベント開催は地域の特性に合わない。

■体育施設の計画や進め方を再考してほしい

- 周知と合意形成が不十分なのでまだ決めないでほしい
- 必要性の根拠を提示してほしい（必要性が理解できない）
- まず広場から整備して体育館整備を段階的に取り組んでは？
- 災害が想定される場所なので避難所としての使用には不適と思われる
- 建設費用が高額になるかが心配される（区の財政圧迫）

3. 富士見坂園地エリアに関する話題

■自然と調和した整備が良い

- 現状の自然を大切にしてほしい（湧水と樹林）
- 木陰の快適性を保全すべき
- 立入制限して外から観察すべき（人が入ると自然が失われる）
- 湧水を活かした園地整備をしてほしい
- 樹木の伐採・剪定は必要最小限にしてほしい（専門家の意見も聞いて）

■田んぼづくりも検討したい

- 平成16年度基本方針からの方向性を継承したい
- 市民参加による管理運営も視野に入れてほしい（ボランティア育成）

■富士見会館につながる園路は必要

- 富士見坂の通行は厳しいので、楽に行けるルートが望まれる。

■富士見会館につながる園路には課題あり

- 近隣住民への影響も考えて利用ルールをつくるべき（利用時間・ルート）

■駐車場の計画に課題あり

- 駐車場への出入りが危険では？（一方通行の道路である）
- 木を切ることになるのでは？

4. 斜面林と湧水地エリアに関する話題

- 自然と調和した樹林管理をしてほしい（保全が前提で最小限の手入れを）
- 安全管理のためにも手入れは必要（倒木の危険性）
- 持続可能な樹林管理方法の確立を
- 生物多様性を豊かにするような維持管理手法が必要
- 研究者や専門家などの意見を聞きながら管理してほしい
- 子どもたちが自然とふれあい学ぶ場にしてほしい
- 湧水地活用の継続が望ましい（保全と活用）

5. 文化施設周辺エリアに関する話題

- 憩いの広場（新設）は有効に利用できるようにしてほしい
- 近隣への配慮を欠かさないでほしい（開館時間や飲食等の競合施設）
- 愛犬家が集う場の復元してほしい
 - ・愛犬家も多いので、ドッグランとしての利用も復活させてよいのでは？
 - ・草っぱら③をドッグランとして使う方法も考えられる。
 - ・この公園はリードをつけての犬の散歩は可能だが、リードを外した大型犬に怖い思いをしたことがある。愛犬家のモラルやマナーを啓発すべき。
 - ・ドッグランは、犬を飼っている人のみが対象となるので反対。子供をかんだりした場合の責任問題など管理者責任を問われる可能性を排除できない。
- 文化施設の駅側の側壁に沿って樹木を植えてほしい。

■開催概要

○日 時：令和2年11月28日（土）9：30～12：30
 ○場 所：田園調布富士見会館
 ○参加者：35名

■プログラム

○テーマ：公園のあるべき姿について考えよう！
 ○目 標：整備の考え方に關する大田区側の情報を共有して、現在の開園エリアと拡張されるエリアの利用や整備について考える。

【タイムスケジュール】

9：30～ 全体会（多目的ホールにて）
 10：40～ グループワーク（多目的ホール及び和室にて）
 12：15～ 全体会（多目的ホールにて）

■当日の様子



全体会



大田区の説明



赤色グループ



青色グループ



黄色グループ



緑色グループ



紫色グループ



ワークシート(2)

【ワークショップでの主な意見（場所ごとの課題の整理）】

1. 体育施設周辺エリア（拡張エリア）

■体育施設の規模・つくり・使い方

- 体育施設の騒音対策は必須で、体育施設内で発生する音を外に漏らさない設備は不可欠。夜間に体育施設を利用した人たちが体育施設の入口や駅前で騒ぐことも防げるようにしないといけない。
- トーナメント試合一日で消化できるにはバレーボール2面（バスケットボール2面）と選手が待機できる観覧席がとれる規模を確保したい。それができない中途半端な施設ならばいらない。
- 中学校・高校の規模がほしい。天井高は十分な高さが必要。
- つくるなら最小限の規模にしてほしい。公園の中では圧迫感がある。
- 建築面積の規模感が示されたが、体育室の面積の妥当性については、使い勝手に直結するため議論の余地を残しておきたい。
- まずは屋根だけつくるなど将来の見直しができるようにしては。
- 緑に覆われた外観にしてほしい。多目的に利用できる施設に。
- 体育施設には駒沢オリンピック公園にあるような中高年が使いやすいジムがあるとよい。
- 地域住民が優先して使えるようにしてほしい。

■体育施設の配置について

- 大きく2案あるのは理解できるが、どちらにも利点欠点があることがわかり、現段階では絞り込みは難しい。
- 体育施設の必要性や中身の議論も無いので、配置を決めるのは難しい。

『宗教施設側に置く場合について』

- 暫定広場が残るので入口広場の視界が開ける、イベント時や災害時にオープンスペースの一体的利用が可能となる、現状の改変が少なくてすむ、などの利点があるが、マンション側への圧迫感を軽減できるか課題。
- 入口広場、文化施設の憩いの広場と一体となってオープンな空間になる。
- イベント時の人の流れを考えると、広場同士がつながり利便性が高い。

『暫定広場に置く場合』

- 入口広場が文化施設と体育施設の間に挟まり狭い空間になってしまう。
- 体育施設の利用者が文化施設のカフェに立ち寄りやすいかもしれない。

■体育施設の是非について

- ワークショップの性質上、是非を判断することは難しい。（公平・平等）
- 防災面の効果について、情報が得られない限り是非の判断はできない。
- 利用面も、ビジョン的なものが提示されないと判断ができない。
- 建設費・維持費についても、費用対効果を評価する上で情報が必要。

■多目的広場について

- 文化施設によって減じた広場を拡張区域で回復させることが基本条件。
- 幼児～小学校低学年と小学校高学年～中学生は利用する場所や時間を分けるなどの新たなルールも検討しては。

2. 休憩所跡地エリア（拡張エリア）

■入口広場のつくり方、せせらぎ公園らしさの表現

- 入口広場から公園全体の樹林がパノラマ状に見えるようにしたい。
- 公園らしさを表現するため、湧水を利用した水路や池をつくと良い。
- 花の少ない公園なので、桜並木や花畑をつくってみては。
- 大々的な入口広場は不要で、草っぱらにベンチがあればよい。
- 既存樹には貴重な木もあるので保全を前提としてほしい。

3. 文化施設周辺エリア（既開園エリア）

- 開館後に運営などに関する協議の場を設けてほしい
- 施設の夜間利用が地域にもたらす影響を注視したい
- 地域の発展にも貢献する運営をしてほしい（特に商店関係）
- 公共交通の利用を促して駐車スペースの拡張は止めてほしい
- 草っぱら③は休憩やペット利用も可能な広場にしてほしい
- 自由通路は消防団や消防隊の訓練にも使いたい（100m×10m程度）

4. 富士見坂園地エリア（拡張エリア）

■計画の具体化に向けて

- 今回のワークショップでは、提示された基本方針までに留め、次の段階で意見交換をしながら計画の具体化を進めていきたい。

■立ち入り制限の必要性について

- 今の自然を守るため、人の立ち入れる範囲は最低限にしたい。
- 住宅が隣接するため、防犯上の配慮も必要。

■自然観察路のつくり方・使い方について

- 木道だけ歩けるようにして、湿地部分は立ち入れないようにするとよい。
- 木道は自然観察や絵を描くスペースも必要なので、幅を取ってほしい。
- 富士見会館への動線と自然観察する人の動線との共存を図りたい。

■自然のつくり方・育て方について

- 放置ではなく、ある程度の手入れを継続する必要がある。
- 田んぼを富士見坂園地に移設したい。そのためには用具の保管庫が必要。

5. 斜面林と湧水地（既開園エリア）

■樹林管理の方法について

- 公園の特徴である自然を残しつつ、樹木の手入れをしてほしい。
- 動植物と共存とふれあいを大切に管理してほしい。
- 樹林管理や自然を熟知した専門家を加えた検討が必要。
- 常緑樹の剪定で樹林内を明るく。（林床が暗いと若木や下草が育たない）
- 季節の変化が乏しいことも課題。落葉樹や花木を増やせるとよい。

■湧水の保全と活用について

- 湧水が減っているので、湧水や水路の保全を最優先とした管理が必要。
- ホテルを観光するイベントが行えないか？（H16基本方針にあり）

■園路のバリアフリー化について

- 自然を破壊してまでのバリアフリー化は不要。現状維持が基本で良い。

6. 多目的広場①と草っぱら①（既開園エリア）

- 草っぱら①は現状の使い方が良い
- 多目的広場①は利用ルールを徹底しつつ現状の使い方が良い
- 体育施設の整備候補地としても良いのでは無いのか？

7. 公園全体について

- 利用ルールを掲示した方がよい（譲り合いのルール）
- 休憩施設を増やした方がよい（四阿やベンチなど）

8. ワークショップについて

- 意見交換・合意形成の場を継続してほしい
- 整備が決まる前に意見交換・合意形成の場を行ってほしい。
- 文化施設の運営面での改善点についても意見交換できる場がほしい。

■開催概要

○日 時：令和2年12月19日（土）9：30～12：30
 ○場 所：田園調布富士見会館
 ○参加者：39名

■プログラム

○テーマ：公園の整備にあたっての課題を共有しよう！
 ○目 標：これまでに出された意見を整理して、公園の場所ごとに今後の課題点を整理する。

【タイムスケジュール】

9：30～ 全体会（多目的ホールにて）
 10：30～ グループワーク（多目的ホール及び和室にて）
 12：00～ 全体会（多目的ホールにて）

■当日の様子



全体会



グループワーク（赤）



グループワーク（青）



グループワーク（黄）



グループワーク（緑）



グループワーク（紫）



グループ発表（全体会）



大田区副都心（全体会）

【ワークショップでの主な意見（場所ごとの課題の整理）】

1. 風の広場ゾーン（上段の台地の広場エリア）

<多目的広場①>

- 今のままの広場利用を継続した方が良い
- 体育館整備の候補地として検討の余地を残しておいた方が良い
- 体育館を整備する場合の課題点も併せて再検討する必要がある

<草っぱら①>

- 駅利用者の駐輪が行なわれないような工夫が必要

<休憩所>

- 今よりも快適に休憩やおしゃべりができるような改修が望まれる

2. 森と泉のゾーン（斜面林と湧水地エリア）

<斜面樹林>

- 防犯を含めた公園利用スタイルに合わせた樹林管理は必要
- 樹木管理の方法は専門家も交えて判断することが大切
- 自然と共存して子ども達や地域住民皆が楽しめる森づくりを目指したい
- 専門家を交えて自然に関する活動ができるような場にしたい
- 魅力向上のための新規植栽も考えて実施すると良い
- どりの坂にある鳥の巣箱は良い試みである

<湧水源・水路>

- 滝や水路が良く見えるような樹木の手入れは必要と思われる
- 湧水を活用したホタルのイベントができると良い
- 景石は再利用すると良い

<園路>

- 自然を守る事を大前提にしつつ必要な場合に限り園路改修を行うと良い
- 駅前通路は安全性と緊急車両の通行も考慮した整備が求められる
- 手すりは使いやすいものへの改修が必要と思われる

3. 輝きの広場ゾーン（文化施設周辺エリア）

<草っぱら③>

- 駐車場の拡張予定地と考えるのは良くない
- 駐車場の増設が必要となる可能性がある
- ペット利用を含めて自由に利用できる広場にすべき

<管理ヤード>

- 北側の入口としてふさわしい整備が望まれる
- 管理ヤードをもう少し縮小した方が良い

<文化施設及び周辺>

- 地域の商店街への影響を考慮した運営が望まれる
- 夜間も開館するので商店街に人が流れてこなくなる可能性が心配される。
- 地域の商店街を圧迫することなく、活性化にも貢献できるように、地域との関わりを大切に施設運営が必要と思う。

- 地域住民においても使いやすい施設運営が望まれる
- 施設の運営に関する情報を区民にしっかり伝える努力が望まれる

4. 富士見坂園地エリア

<富士見坂園地>

- 周辺住民の生活に支障が出ないような配慮が望まれる
- できる限り、自然観光的な利用に留め、静かな利用が行なわれるようにする必要がある。
- 富士見会館への通路は作らない方が良い
- 出張所としての運用が始まり、公園としての供用が始まってから、公園の利用状況や住民のニーズをなど確認した上で通路の是非を決めれば良いと思われる。
- 高低差がある場所なので、通路を作るための工事が大規模になり、今ある自然が無くなる可能性があるため、通路は作らない方が良いと思う。
- 富士見会館への通路はあった方が良い
- 人が立ち入らないエリアとして外から観察する場所としたい
- 田んぼの整備はこの場所に合っていると思う
- 自然観察を目的とする木道程度の整備は良いと思う。
- 自然観察用の散策路として、尾瀬にあるような木道があれば、四季の花や生物観察もでき、自然をより楽しみ、自然の保全にもつながるのでは。

5. 体育施設周辺エリア

<体育施設>

『整備に賛成する意見のまとめ』

- 近くに体育施設が無い調布地区としては必要
- 災害時の避難場所にもなるので意義が高い
- スポーツ以外にも雨天時のイベントほか多目的に利用できるのが有効
- 練習程度の利用であっても球技その他多様な利用に対応できるので有効

『整備に反対する意見のまとめ』

- 周辺住民の生活に支障（騒音や慰安など）をきたす恐れがあるため反対
- 必要性に関する情報提示が少なく現段階では賛成できない
- 防災機能の視点ではこの公園は適地ではない
- 区の財政を圧迫しかねない施設整備には反対

『体育施設を作るとした場合の具体的な要望事項』

■施設利用面の要望事項

- 防災機能も十分に配慮された施設にしてほしい。
- 公式戦は考えなくてよいが、バレーボールの地区大会で、14校でのトーナメント戦に使うためには、2面取れるコートが必要。
- PTAのバレーボール利用では、天井高が10.5m以上無くても構わない。
- 身障者や高齢者も使える体育施設が無いので、対応してほしい。
- バリアフリーで利用できる施設にしてほしい。

■運営面の要望事項

- 地域が優先して使えるような施設にしてほしい。
- 夜10時までオープンされると治安の面で心配。

■防災面の要望事項

- 高床にして浸水対策をしてもらいたい。天井高は低くなくても良い。
- 過去の洪水の原因は雨水貯留（六郷用水に流さない）が原因なので、排

水ポンプが停止した場合でも支障が無いような構造としてほしい。

■建設の妥当性を明らかにした上で整備を進めてほしい

- 体育館を利用する人の要望が明確でないことには疑問を感じる。
- 需要予測や費用対効果を確認した上で、整備の方向性を決めるべき。
- 妥当性が明らかになった場合には、一次的に財政が苦しくなったとしても、区民が有効に活用できる施設を残していく方が良い。
- 必要事項をしっかりと調査し、長期的なビジョンを持って進めるべき。

■体育施設の整備にあたっては早いタイミングで意見交換の場を設けるべき

- 計画や設計が決まってしまってから説明会を開かれると、意見を出しても意味がなくなる。
- 意見によって、まだ計画が変えられる段階で説明会を開くべきである。
- 住民が納得できる整備とするため、もっと時間を取って意見交換すべき。
- 文化施設の運用状況も見たと上で、利用者の意見も聞いて再検討してほしい。
- 賛成意見も反対意見も両方とも理解でき、ワークショップでは判断できなかった。判断材料となる具体的な情報（体育施設に対する必要性、避難想定人数、水害リスク等）が提供された上で、建設的な議論ができるような場を設けて、継続して議論すべきである。

■防災計画は体育施設だけでなく広域的かつ根本的な検討が必要

- 防災対策は体育館の問題とは別問題として考えた方がよい。
- 防災面に関しては住民の命を守る重要な問題であり、体育館に避難機能をつけたすだけではなく、避難所をつくるのであれば高台にするなど、専門家も交えた検討が必要。
- 帰宅困難者の受け入れを含めると、公園に避難所を作っても全く足りない。例えば多摩川台公園に仮設テントを作る方法もあり、広域的に根本的に防災計画を見直す必要がある。

<休憩所跡地>

■公園の名にふさわしい親水空間で開放的な広場が良い

■入口広場の作り方についてのアイデア

- 開放感と季節感を感じる空間としては、この周辺が良い場所だと思う。
- 噴水広場のように、夏は子供が水遊びできるような場所があると良い。
- かがあると子供が遊べるようになり、大人も見ていて気持ちが良い。
- 入口広場を広く取ることは重要。都心に近い所で、こんなに緑が見える所あるという事を、アピールできる場所になると思う。
- 駅を降りた時に、おおらかな気持ちになるような空間づくりが良い。
- 公園の顔になる場所なので、花のある空間づくりが良い。
- 開放感のある空間とするためには、体育施設は宗教施設側に建てた方が広場を大きく取れる。

6. 公園全体について

<施設の考え方>

- 公園の名前にふさわしい作り過ぎない整備が望ましい
- 公園内に避難所をつくってほしい（地域で不足している）

<駐輪場>

- 公園の利用状況に合った駐輪場のあり方を検討すべき
- 公園利用と関係のない駐輪が行なわれないような工夫が求められる

7. 運営面その他について

■住民の声を聞いて対応できるような仕組みが必要

- 公園の運営協議会のようなものを立ち上げ、住民目線で公園の整備や運営が行なえるような仕組みが不可欠と考えられる。

■利用者意見を公園の整備や運営に活かす仕組みが必要

- アンケート調査をして細やかな意見収集を行なうことが、より良い公園づくりにつながる。

■周りへの周知を徹底してほしい

- 文化施設の整備の際、情報が伝わってこなかった。掲示板だけでは充分ではないので、今後は回覧板で確実に情報が周知されるようにしてほしい。

■整備が決まる前に住民と話し合う場を作ってほしい

- 決定した事を説明するのではなく、住民の意見を聞いて、計画を見直す事ができるような段階で話し合いの場を設けてほしい。
- できれば、地域説明会の前に話し合いの場があると良いと思う。

■公園同士をつなぐお散歩マップを作ったらどうか

- 多摩川台公園はあじさいが有名なので、ここでは桜の名所にするなども考えられる。
- せせらぎ公園の湧水や池から駅を経由して、多摩川台公園へ抜けるルートなど、都内でもこんなに緑のある公園があるという紹介ができると思う。
- 六郷用水や商店街を巡る回遊路など、遊歩道の整備と合わせて紹介しても良いと思う。

■コミュニティバスを運行してほしい

- 高低差がある地域なので、不便を感じている人がいると思う。コミュニティバスのような移動手段があれば、公園や駅も更に使いやすくなるのではないかな。
- 地域の中を巡回する移動手段があれば、地元で買い物する人も増えて、地域の活性化にもつながるのではないかな。

■カラスの対策をしてほしい

- どりの坂付近はカラスが多い。公園利用にも関わることなので、何かしら対策がなされると良いと思う。

■夜間の利用があっても良いのでは

- 基本的には夜間閉鎖の公園が良いが、夜でなければできない事もあるのでは、公園に関連する夜間イベントのような催しを企画しても良いのでは。例えばとすると、セミの羽化鑑賞会、ホタル鑑賞会、映画会なども考えられる。

田園調布せせらぎ公園空中写真 (©Google Earth、画像取得:2018年)



7. 課題整理表（ワークショップとりまとめ）

08

現況施設名称	「H16ラケットクラブ跡地整備活用への提案」より		課題の整理（R02公園計画ワークショップの成果）※⇒赤字は大田区による考察（今後の方向性）	備考
	現況施設等の整備活用方針	具体的方策・ルール（例）		
風の広場ゾーン（多目的広場①と草っぱら①）				
多目的広場①	球技等のスポーツの練習 親子連れや子供達の遊び イベントやまちづくり活動 雨水浸透・防火水槽など	子供達のキャッチボール程度 地域のイベント 地域の少年サッカーの練習 犬の放し飼いは禁止	<p>■多目的広場①の使い方について</p> <ul style="list-style-type: none"> 譲り合って利用するルールが定着しているので、今のまま利用を継続した方が良い。 ただし、危険を感じることもあるため、利用のルールを周知する必要がある。 ⇒利用のルールは看板等で周知していく。 <p>■体育施設整備の候補地として検討の余地を残すべきでは？</p> <ul style="list-style-type: none"> 浸水の心配がなく、避難機能の向上や利便性など、メリットが多いと考えられる。 反面、湧水への影響や広場の移設に伴う利便性の低下など、デメリットも考えられる。 ⇒山の上の子供たちの貴重な広場として利用されていること、駅からのバリアフリー動線が確保できないことなどから、多目的広場①は体育施設の候補として適地とは考えにくい。 	
草っぱら①	多目的広場①と一体的に利用 親子連れや子供達の遊び 休憩所との一体的な活用 雨水浸透	全て草地にする 野外卓やベンチの設置 雨水浸透施設の整備	<p>■草っぱら①の使い方について</p> <ul style="list-style-type: none"> 近隣の保育園や親子など多くの利用があるので、今のまま利用を継続した方が良い。 ⇒現状の利用を継続する。 <p>■駐輪に関する問題について</p> <ul style="list-style-type: none"> 土日やイベント時には、自転車やベビーカーが多く停められている。 駅利用者で見られる自転車も停められているので、何か対策が必要と思われる。 ⇒利用状況を踏まえて、対応を検討します。また、利用のルールは、看板等で周知していく。 	
休憩所	屋根付き休憩スペース トイレ ゆったりとした時間を楽しむ	トイレの改築 自動販売機の設置 草っぱらとの連絡スロープの設置	<p>■休憩所のあり方について</p> <ul style="list-style-type: none"> 上の段で唯一雨宿りできる施設なので、グループ利用もできるような改修が望ましい。 薄暗い雰囲気があるので、明るく利用しやすい施設への改修が望まれる。 ⇒利用状況を見ながら、対応を検討していく。 	
森と泉のゾーン（斜面林と湧水地）				
斜面樹林	自然観察・自然体験（森林浴） 植生の保護・復元 斜面の安全性確保 公園景観の骨格とする	自然を損なわない利用 環境学習（自然観察会など）の場 斜面の補強（自然にやさしい工法） 適正な樹林管理	<p>■樹林地に求める自然的要素について</p> <ul style="list-style-type: none"> 生物としては、昆虫類（カブトムシ、ホタルなど）、鳥類（ウグイスほか）、爬虫類などの保護が大切と考えている。 植物としては、樹木、花、野草、ドングリなどの保護が大切と考えている。 ⇒生物、植物の保護を考えた整備を進めていく。 <p>■樹林管理の考え方について</p> <ul style="list-style-type: none"> 今の生態系を壊さないことを大前提とした、最低限の管理は必要だと思う。 治安を含めた公園の利用スタイルに合わせた管理（抜歯・剪定など）は必要だと思う。 自然や生物と共存しながら、皆が楽しめるような森づくりを目指したい。 倒木や土砂流出などの危険性があるものに対しては、適正な管理が必要だと思う。 林床が暗く若木や下草が育ちにくい状態なので、もう少し明るい樹林にした方が良い。 ⇒地域の要望を踏まえ、適正に樹林地管理を継続していく。 <p>■専門家も交えた樹林管理について</p> <ul style="list-style-type: none"> 樹林管理の専門家を交えて、適正な管理方法の検討や判断を行った方が良い。 ⇒専門家によるアドバイスを取り入れながら適正に管理していく。 <p>■樹林の魅力向上に向けて</p> <ul style="list-style-type: none"> 季節の変化が乏しくなっているので、落葉樹や花木を増やせると良いと思う。 地域の方々のボランティアによる花畑があっても良いのでは。 専門家やボランティアなどにより、自然観察関連のイベントができると良いと思う。 ⇒ボランティア活動・イベントについては、内容を精査しながら対応していく。 	

現況施設名称	「H16ラケットクラブ跡地整備活用への提案」より		課題の整理（R02公園計画ワークショップの成果）※⇒赤字は大田区による考察（今後の方向性）	備考
	現況施設等の整備活用方針	具体的方策・ルール（例）		
森と泉のゾーン（斜面林と湧水地）（前ページからの続き）				
湧水源・水路	湧水を保全・活用 景観の復元 多様な生物の生育環境創造 自然観察・体験	ボランティア活動を支える仕組み 環境指導員の育成 湧水と触れ合える場をつくる 自然観察用スポットをつくる	<p>■湧水の保全と活用について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・昔に比べると湧水の量が減っており、湧水や水路の保全を最優先とした管理が必要。 ⇒湧水・水路の保全に努めていく。 ■湧水を活用したホタルのイベントについて ・H16整備方針のサブテーマ「ホタル舞う多摩川流域大田西地域拠点を目指して」を実現したい。自生は難しくとも、ホタルを放して観賞するような企画が考えられないか。 ⇒NPO団体等の協力により、地域のイベントとしての実現性できるよう協力していく。 	
修景池・流れ	ゆったりと水との触れ合い 子供達の水遊び 落ち着いた庭	水面に近づける場所をつくる 暗渠部の流れを流れに復元 柵などの安全対策を施す	<p>■滝や水路がよく見えるように</p> <ul style="list-style-type: none"> ・樹木が生い茂り、滝や水路が見えにくくなっているため、樹木の手入れをしてほしい。 ⇒適正に管理を行い、水辺の景観等に配慮した管理を行っていく。 ■景石の再利用について ・立派な石なので、改修の際には有効活用した方がよい。 ⇒これまでと同様に景石については、再利用を前提に整備を進めていく。 	
細園路	四季の変化や自然を楽しむ 楽しく散策ができる ペットとの散策 安全で移動しやすく	花壇など四季の草花を楽しめる場 閉鎖区域に自然観察路を整備 手すりなどの安全対策 照明（足元灯）の整備	<p>■園路のバリアフリー化について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・現状維持が基本で、自然を壊してまでバリアフリー化を強行すべきではない。 ・ただし、階段のぐらつきや舗装の段差解消、手すり新設などには対応してほしい。 ⇒自然との調和と保全を前提としたバリアフリー化を可能な範囲で進めていく。 	
四阿	滝の景観を楽しむ ゆったりとした時間を楽しむ	屋根付き休憩スペース 非常用水栓の設置	■（課題に関する指摘事項なし）	
輝きの広場ゾーン（文化施設周辺エリア）				
多目的広場②	球技等のスポーツの練習 親子連れや子供達の遊び イベントやまちづくり活動	子供達のキャッチボール程度 地域のイベント 地域の少年サッカーの練習（試行） 犬の放し飼いは禁止	<p>■代替の広場について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・元の面積（約800㎡）と同程度の広場を体育施設周辺に確保する方がよい。 ⇒今後の整備で拡張用地に復元を検討していく。 	
多目的広場③	球技等のスポーツの練習 親子連れや子供達の遊び イベントやまちづくり活動	子供達のキャッチボール程度 地域の少年サッカーの練習（試行） 犬の放し飼いは禁止	<p>■代替の広場について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・元の面積（約1,600㎡）と同程度の広場を体育施設周辺に確保する方がよい。 ⇒現在は、暫定広場（約1600㎡）として復元している。 	
草っぱら②	親子連れや子供達の自然遊び 野外活動体験学習 誰もが憩える 湧水を特長とした草地広場	火を使える場所や洗い場を設定 湧水の水路を整備（一部水遊び） ベンチを設置 必要に応じて垣根を移植	■基本的に現状維持とする	
草っぱら③	（草っぱら②と同じ）	（草っぱら②と同じ）	<p>■駐車スペースとしての利用はしない</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自動車でのアクセスがしにくい公園であるが、そのおかげで公園の魅力が守られているともいえる。駐車場はなるべく使わないで電車で来て下さい、というような基本的な姿勢をルールで示すと良い。 ⇒公共交通機関での来園をPRしていく。 ・自転車での来園を促し、あわせて駐輪スペースを充実させる。 ・現状の草っぱのまま、臨時的駐車スペースとしての活用は検討の余地あり。 ⇒臨時的駐車スペースとしての活用は、状況を見て検討していく。 ・体が不自由な方用の駐車スペースは必要。 ⇒既存駐車スペースで対応している。 ■駐車場の増設が必要となる可能性について ・せせらぎ館の開設により増設の可能性は否定できない。何らかの対策は必要である。 ⇒公共交通機関での来園をPRして、駐車場の増設は長期的な課題とする。今後の利用状況を注視していく。 	

現況施設名称	「H16ラケットクラブ跡地整備活用への提案」より		課題の整理（R02公園計画ワークショップの成果）※⇒赤文字は大田区による考察（今後の方向性）	備考
	現況施設等の整備活用方針	具体的方策・ルール（例）		
輝きの広場ゾーン（文化施設周辺エリア）（前ページからの続き）				
草っぱら③	（草っぱら②と同じ）	（草っぱら②と同じ）	<p>■草っぱら③の使い方について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ペットも利用できる広場にしてはどうか。フェンスで囲えば犬が嫌いな人も安心できる。愛犬家同士の交流の場になり、マナーの啓発にも役立つと考えられる。 ⇒ペット連れでも利用できるようにフェンスで囲む整備を検討していく。 ・愛犬家グループと話し合う機会が必要。 ⇒地域の愛犬家との意見交換の場を設けられるよう工夫していく。 ・駐車場に近いため、老人ホームの方たちが利用しやすい。お年寄りのグループがくつろげるようにベンチを増やせるとよい。 ⇒ベンチ等の休憩設備の増設を進めていく。 	
草っぱら④	（草っぱら②と同じ）	（草っぱら②と同じ）	<p>■草っぱら④について</p> <ul style="list-style-type: none"> ⇒文化施設建設前と同程度の草っぱらは、せせらぎ館の芝生広場にて確保している。 	
文化施設（せせらぎ館）	（新規整備）	（新規整備）	<p>■樹木の回復について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・駅に面する文化施設の側面に植樹をしてほしい。以前はマテバシイの列植やクスギの大木があり、キンモクセイやツバキなど、季節を彩る花木も多くあった。 ⇒自由通路への植樹は検討していく。 <p>■開館後に運営などに関する協議の場を</p> <ul style="list-style-type: none"> ・文化施設の使い勝手をよくするため、利用開始後に見直し可能な余地と機会があるとよい。 ⇒公園利用者の意見や要望を伝え、改善できるような仕組みを検討していく。 <p>■施設の夜間利用が地域にもたらす影響を注視</p> <ul style="list-style-type: none"> ・文化施設の夜間利用による影響について注視する必要がある。治安面での住環境への配慮、駅前に交番を移転なども考えていくべきではないか。 ⇒園内へは立入り禁止柵の設置を行っています。夜間の利用状況を区側も把握し必要に応じて対策を講じていく。 <p>■地域の発展に貢献する運営を</p> <ul style="list-style-type: none"> ・文化施設から商店街への人の流れをつくるなど、地域の発展に相乗効果が得られるような運営ができるといい。 ⇒公園利用者の意見や要望を伝え、改善できるような仕組みを検討していく。 <p>■文化施設の雨水利用</p> <ul style="list-style-type: none"> ・文化施設の屋根に降った雨水を、減少しつつある湧水を補うために使えないか。 ⇒施設周辺は雨水が浸透する構造としています。今後、公園整備の中でも検討していく。 	
憩いの広場（芝生広場）	（文化施設と同時整備）	（文化施設と同時整備）	<p>■芝生広場として整備済み</p> <ul style="list-style-type: none"> ・草っぱら④の代替え広場としても機能している。 ⇒今後の整備は、駅前広場と一体として利用できるよう検討していく。 	
休憩所跡地	（体育施設建設後に整備）	（体育施設建設後に整備）	<p>■入口広場のづくり方（せせらぎ公園らしさの表現）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・公園の顔となるため、くつろぎと憩いを提供する開放的な広場が良い。 ・入口広場から公園全体の樹林がバノマ状に見えるようにしてはどうか。 ・公園らしさを表現するには、湧水を利用した水路やじゃぶじゃぶ池をつくと良い。 ・花の少ない公園なので、桜並木や花畑をつくってみては。 ・大々的な入口広場は不要で、草っぱらにベンチがあればよい。 ・せせらぎ公園のメインエントランスとして公園を案内・誘導するサインが必要。 ⇒入口広場については、ワークショップでの意見を踏まえた案内板や湧水の池、草地広場など、オープンスペースの拡充に努めていく。 <p>■既存樹の保全</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域住民に親しまれてきた貴重な木がたくさんある。春のウメ、秋に赤い実がなるヤマモモやクログネモチなど。できるだけ現状のまま引き継いでほしい。 ⇒解体工事で一部を移植する予定であるが、可能な限り現状を維持していく。 	

現況施設名称	「H16ラケットクラブ跡地整備活用への提案」より		課題の整理（R02公園計画ワークショップの成果）※⇒赤字は大田区による考察（今後の方向性）	備考
	現況施設等の整備活用方針	具体的方策・ルール（例）		
休憩・まちづくり活動ゾーン（休憩所跡地エリア）				
草っぱら⑤	自由に使える休憩スペース 幼児から高齢者までの利用 休憩所からの景観を楽しむ	湧水の水路に変化を持たせる （水性植物植栽、形状の変化等） ベンチの増設	■ 現状維持を基本とする ・湧水を利用した既存の池や流れは、利用状況に合わせた改修は必要。 ⇒広場とのバランスを考慮しながら改修を行っていく。	
修景池	休憩所からの景観を楽しむ 湧水の流末となる池 六郷用水への送水	流末を六郷用水へ切り替え 六郷用水への送水施設整備	■ 必ず残さなければいけないものではない ・入口の整備に合わせて改修しても良いが、景石の再利用などの工夫は行いたい。 ⇒今後の公園計画に当たり、景観・利用を考慮した整備を検討していく。	
管理ゾーン				
倉庫	公園管理詰所・資材置場 非常用資材置場・防火水槽	公園管理詰所・資材置場 非常用資材置場・防火水槽	■ 公園運営に関わる施設への転用と管理ヤードの取り扱いについて ・用途が決まっていないようであれば、公園ボランティア関係の詰所として使いたい。 ・公園の北側入口としてふさわしい整備が望まれる。 ・管理ヤードはもう少し規模を縮小して、既存の桜が見られるようにしたい。 ⇒現状、公園内の整備を行う資材置場等で利用しています。管理棟周辺については、今後の施設運用の状況を見ながら改修を進めていく。	
駐車場	公園用駐車場（有料）	有料駐車場として改修 将来的には縮小して園路化	■ 基本的に現状維持 ・増設するかどうかに関しては、十分な検討が必要。 ⇒公共交通機関での来園をPRして、駐車場の増設は長期的な課題とする。今後の利用状況を注視していく。	
自由通路（通り抜け通路）	歩行者通路（24時間開放） 駅利用者用駐輪場と通路 維持管理車両の通行	メインエントランスに併せて駐輪場を移設 広いメインエントランスを確保	■ 自由通路の使い方について ・消防団や市民消防隊の訓練で利用できないか。（100m×10m程度の舗装路面で可） ・一般車の通行は不可。緊急車両と管理車両のみの通行に限る。 ⇒現状通路における消防訓練については、公園利用者への配慮も踏まえて対応していく。	
園路				
主園路等	四季の変化と散策を楽しむ ペットとの散策利用 安全に移動できる 周遊できる 維持管理車両の通行	段差解消等のバリアフリー化 将来的には周遊できる園路に改修 花壇など草花を楽しめる場を整備 手すりの設置 ベンチなど休憩施設を増やす	■ 動線のバリアフリー化について ・自然を傷めない範囲であれば、スロープなどのバリアフリー化を検討しても良い。 ・利用人数や周辺の自然環境など、データに基づいた整備が望ましい。 ・手すりが無いところもあるので、必要に応じて整備が行われると良い。 ⇒自然との調和と保全を前提としたバリアフリー化を可能な範囲で進めていく。	
ソフト面				
運営面	夜間は閉鎖管理とする 原則として広場には占用施設は設けない 休憩所は夜間解放とする	年末年始の開園を行なう 自主活動グループの育成 ボランティア活動への支援 自然観察会などの開催	■ 生活動線への配慮 ・通勤通学に多く利用されているため、開園時間の延長も検討した方が良い。 ⇒防犯面や利用状況を踏まえて、対応を検討していく。 ■ 住民の声を聞いて対応できるような仕組みについて ・運営協議会のようなものを立ち上げて、住民が公園の運営に参加できる仕組みが必要。 ・アンケート調査をして細やかな意見収集を行う事が、より良い公園づくりにつながる。 ・公園整備に関する情報発信の際は、確実に情報が行き渡るようにすることが重要。 ⇒地域住民、公園利用者の方からのご意見・ご要望を取り入れられるように、又、広く情報発信できるように取り組んでいく。 ■ その他運営面に関わることについて ・周辺の公園同士をつなぐ「お散歩マップ」を作ったらどうか？ ・コミュニティバスのような移動手段が加われば、公園がもっと使いやすくなると思う。 ・カラスが多い場所（どりの坂付近）があるので、何かしらの対策が望まれる。 ・夜間の利用（主にイベント）も視野に入れた運営が望まれる。 ⇒今後も、公園利用者の意見を参考にしながら運営に配慮していく。	

現況施設名称	「H16ラケットクラブ跡地整備活用への提案」より		課題の整理（R02公園計画ワークショップの成果）※⇒赤文字は大田区による考察（今後の方向性）	備考
	現況施設等の整備活用方針	具体的方策・ルール（例）		
体育施設周辺エリア				
体育施設	(新規整備予定)	(新規整備予定)	<p>■体育施設整備の是非について</p> <ul style="list-style-type: none"> 施設整備の是非をワークショップに求めるべきではない。判断は区政の役割である。 計画の根拠として平常時・災害時の利用想定を数字で示すべき。 防災計画づくりを並行して進め、専門家を交えた条件整理と議論を進めるべき。 建設費・維持費の情報提供も費用対効果を評価する上で必要。 <p>●整備に賛成する主な意見</p> <ul style="list-style-type: none"> 近くに体育施設が無い調布地区としては必要な施設である。 災害時の避難場所にもなるため、避難施設が不足する調布地区としては意義が高い。 スポーツ以外にも雨天時のイベントほか多目的に利用できるので、有効な施設である。 球技、その他多様なスポーツの練習などにも利用することができる。 <p>●整備に反対する主な意見</p> <ul style="list-style-type: none"> 必要性に関する情報提示が少なく、地元の合意が取れているとは考えられない。 防災機能を求めるのであれば、浸水が心配される本整備予定地は適地ではない。 区の財政を圧迫しかなない施設整備には賛同できない。 周辺住民の生活に支障が出る恐れがあるため賛同できない。 <p>⇒区の各種計画に基づき体育施設の整備を進めるにあたっては、ワークショップの内容も踏まえ総合的に判断し決めていく。今後、計画を進めていく中で適宜情報提供していく。</p> <p>■体育施設を整備する場合の規模・つくり・使い方など</p> <ul style="list-style-type: none"> 体育室の面積は使い勝手に直結するため議論の余地を残したい。トーナメント試合を一日で消化できるバレー・ボール（バスケットボール）コート2面と選手が待機する観覧席。天井高は十分な高さ。 つくるなら最小限の規模に。公園の中につくるため、大きいと圧迫感がある。 はじめから完成させるのではなく、将来の見直しができるようにしては。 緑に覆われた外観に。多目的に利用できる施設に。 中高年が使いやすいジムがあるとよい。 <p>⇒体育施設の整備については、ワークショップの内容も踏まえ総合的に判断し決めていく。</p> <p>■体育施設の運営に関する心配ごと</p> <ul style="list-style-type: none"> 体育施設内で発生する騒音を外に漏らさない設備は不可欠。 特に夜間で体育施設利用者が外で騒ぐ騒音にも対策が必要。（交番の設置も効果的） <p>⇒建物のハード面だけでなく、施設運用によるソフト面を含め、騒音への対策を検討していく。</p> <p>■地域住民が優先して使えるようになるか</p> <ul style="list-style-type: none"> 遠い人や優先枠の人が多く利用して、地元の人が利用できなくなる事が心配される。 <p>⇒運用について今後検討していく。</p> <p>■体育施設の配置について</p> <ul style="list-style-type: none"> ワークショップにおける配置案には利点欠点がある。今後は日常・災害時の利用想定などの新情報を踏まえ、配置については改めて議論したい。 暫定広場に置いて、宗教施設側に寄せても、駅からの近さに大きな違いはない。 現状の改変が最小限となるよう計画することで、整備費の低減、環境負荷の軽減につながる。 体育施設と文化施設の連携や一体的運用の場面が想定されるかを整理する必要がある。 <p>⇒区の各種計画に基づき体育施設の整備を進めるにあたっては、ワークショップの内容も踏まえ総合的に判断し決めていく。</p>	

現況施設名称	「H16ラケットクラブ跡地整備活用への提案」より		課題の整理（R02公園計画ワークショップの成果）※⇒赤文字は大田区による考察（今後の方向性）	備考
	現況施設等の整備活用方針	具体的方策・ルール（例）		
体育施設周辺エリア（前ページからの続き）				
体育施設	(新規整備予定)	(新規整備予定)	<p>●宗施設側に置く場合</p> <ul style="list-style-type: none"> ・暫定広場を残置すると、入口広場の視界が開ける、イベント時や災害時にオープンスペースの一体的利用が可能、現状の変更が少なくすむ、などの利点があるが、マンション側への圧迫感を軽減できるかが課題。 ・体育施設を南側の線路側に配置すると、隣接マンションへの影響は少なくなるが、浸水の可能性がある区域に重なってしまい、対策費が余計にかかるかもしれない。 <p>●暫定広場に置く場合</p> <ul style="list-style-type: none"> ・入口広場が文化施設と体育施設の間に挟まり狭い空間になってしまうのではないか。 ・文化施設と体育施設を近づけると、体育施設の利用者が文化施設のカフェに立ち寄りやすいかもしれない。 <p>●高台の多目的広場に置く場合</p> <ul style="list-style-type: none"> ・浸水の心配は無くなるが、子供の遊び場の確保を考えると、適地でないのでは。 ・住宅地前になるため、近隣住民への圧迫感が大きく感じられるかもしれない。 ・崖の上となるため、崖の保護が必要となるかもしれない。 <p>⇒区の各種計画に基づき体育施設の整備を進めるにあたっては、ワークショップの内容も踏まえ総合的に判断し決めていく。</p> <p>■整備に関する意見交換の場の設定について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・出した意見により、まだ計画が変えられる段階で説明会を開くべきである。 ・住民が納得できる整備とするためには、もっと時間を取って意見交換すべきである。 ・判断材料となる具体的な情報提供（必要性、利用計画、影響、リスクなど）が必要。 ・防災計画は、体育施設だけでなく、広域的かつ根本的な検討が必要。 <p>⇒今後、計画を進めていく中で適宜情報提供していく。</p>	
多目的広場			<p>■広場の面積について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・文化施設の整備によって減じた広場面積分を拡張区域で回復させることを基本としたい。 <p>⇒多目的広場の機能回復は基本的な条件として整備を進めていく。</p> <p>■暫定広場の取り扱いについて</p> <ul style="list-style-type: none"> ・暫定広場を残置する場合でも、暫定広場の入口は駅側（入口広場側）にも新たに作るべき。 <p>⇒多目的広場については、駅からの利便性を考慮した位置に出入口を設けていく。</p> <p>■周辺への配慮について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・多目的広場は、砂ぼこりが立たないようにつくり方に配慮してほしい。 <p>⇒砂ぼこりへの配慮した設計仕様としていく。</p> <p>■広場の利用方法について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・多目的広場①は低年齢層の利用が主で賑やか、暫定広場は高齢層の利用が主で比較的静か。利用のすみ分けが継承できれば騒音は少ないかもしれない。 ・多目的広場のように「譲り合って使う」というルールを大事にしつつも、幼児～小学校低学年と小学校高学年～中学生は利用する場所や時間を分けるなどの新たなルールも検討してみたい。 <p>⇒利用のルールについては、現状の利用を踏まえて、対応していく。</p>	
富士見坂園地エリア				
富士見坂園地	(新規整備予定)	(新規整備予定)	<p>■計画の具体化に向けて</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今回のワークショップでは基本方針の検討までしか出来なかったため、次の段階のワークショップでは計画の具体化を進めていきたい。 <p>⇒ワークショップの成果を踏まえながら、計画を具体化していく。</p>	

現況施設名称	「H16ラケットクラブ跡地整備活用への提案」より		課題の整理（R02公園計画ワークショップの成果）※⇒赤文字は大田区による考察（今後の方向性）	備考
	現況施設等の整備活用方針	具体的方策・ルール（例）		
富士見坂園地エリア（前ページからの続き）				
富士見坂園地	（新規整備予定）	（新規整備予定）	<p>■立ち入り制限の必要性について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・人が入らないことで守られてきた生態系を引き継ぐビオトープに。人の立ち入れる範囲は最低限に。 ⇒現況の自然環境の保全継承を優先とした計画としていく。 <p>■防犯対策について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・住宅が隣接するため、防犯上の配慮も必要。 ⇒隣接住宅の防犯上の配慮とプライバシー確保に努めた計画としていく。 <p>■自然観察路のつくり方・使い方について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・尾瀬のように木道だけ立ち入ることができるようにして、湿地部分は立ち入れないようにするとよい。 ・木道には自然観察や絵を描くスペースがあるべきで、ゆとりのあるものにしてほしい。 ・バードウォッチングができるようにしたい。 ・木道の勾配を緩やかにするなどしてバリアフリーにするのはよいが、そのために自然を壊さないように。 ・富士見会館を利用する人と自然観察に利用する人の共存が図れるようルールづくりが必要。 ⇒自然との調和と保全を前提とした形で、バリアフリーにも適した整備としていく。 <p>■自然のつくり方・育て方について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・湿地や樹林はある程度の手入れを継続するべき。急傾斜地の安全性を維持する必要がある。 ⇒適切な管理を進めていく。 <p>■田んぼのつくり方・運営について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・草っぱら③にある田んぼを移設したい。田んぼづくりに使う用具の保管庫が必要。 ⇒田んぼづくりに、NPO団体等の協力が必要。 	
公園全体について				
			<p>■利用ルールの掲示について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ラケットクラブ跡地整備方針で定めたゆずりあいの利用ルールを知らない人が多いので、サインを掲示するなどして周知を図る必要がある。 ⇒看板等で利用のルールやマナーを周知していく。 <p>■休憩施設の増設について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・公園全体で四阿やベンチを増やしてほしい。 ⇒ベンチ等の休憩設備の増設を進めていく。 <p>■防火水槽の整備</p> <ul style="list-style-type: none"> ・防災用貯水槽を作してほしい。 ⇒防火水槽は、どりの坂側に整備済み。 <p>■駐輪場の整備について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・公園の利用状況に合った駐輪場のあり方を検討すべき。 ・公園利用と関係の無い駐輪（主に駅利用）ができないような工夫が必要。 ⇒利用状況を踏まえて、対応を検討していく。 	
ワークショップについて				
			<p>■意見交換・合意形成の場の継続について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今後も区民と行政の意見交換・合意形成の場を継続してほしい。公園の20年、50年先を見据えて、いい方向に向かうよう、行政も区民も互いに努力する場にしていきたい。 ・計画側と利用側が事前に話し合い、ニーズを十分に把握した上で整備してほしい。 ⇒ワークショップの成果を踏まえながら、必要に応じて意見交換の機会を設けていく。 <p>■住民の意見や要望を受付ける仕組みづくりについて</p> <ul style="list-style-type: none"> ・文化施設、体育施設とも、供用開始後に実際に使いにくさが明らかになったときは、区に対して利用者の意見や要望を伝え、改善できるような仕組みが欲しい。検討段階から、あるいは利用しながら、改善点を協議し、よりよい方向に進められるとよい。 ⇒地域の意見を取り入れながら、必要な改善は行っていく。 	

